

1 題材名 がんの治療で大切なこと

2 本時のねらい

医師やがん経験者の話を聞くことを通して、健康や命の大切さについて、主体的に考えることができる。

3 本時の展開

授業日時：令和5年12月20日（水）13:30～14:20

授業者：北島 一司

過程	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師（外部講師）の指導 ※留意事項
導入 5分	1 課題づくり・講師紹介 ○がんの仕組み、要因、現状や予防策などを振り返る。 ・がんは、日本人の死因第1位で、生涯のうちに2人に1人がかかる可能性がある。 ・予防をするためには喫煙をしないこと、規則正しい生活をするのが大切だ。  2 課題提示 「がん」に関わる人の話を聞いて、自分や家族や仲間の「いのち」について考えよう。	◇既習の内容を簡潔に振り返り、つながりをもたせながら、課題提示をする。 ◇外部講師を紹介し、緩和ケアについて説明するとともに、漠然とした不安や想像した心のつらさについて一緒に考えてもらえることを伝えることで、学習意欲を高める。 ※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいたりする場合、本人及び保護者に事前説明をするとともに、授業中は本人の様子を観察するなど配慮する。
展開 40分	3 「がん」について理解を深める。【医療者】 ○がんになる理由や原因 ○がんになる人の割合 ○どのような生活を送ればよいのか ○がんの早期発見と検診 ○がんの治療法 など ・がんは私や私の家族にもかかるかもしれないことがより分かった。もっと深く考えてみたい。 ・がん検診や予防は、他人ごとではない。  4 「がん患者」の体験や願いを聞く。【がん経験者】 ○告知を受けた時の気持ち ○治療内容 ○家族や友だち、患者会の仲間の支え ○元気な患者だけではないこと ○中学生に伝えたいこと など 1：助けを求めて 2：日常の大切さに気付いて 3：今日のお話を聞いて思ったことを大切な人に話して ・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがある。助けを求めることが大事だと感じた。 ・今生きていることを楽しもう。 ・つらい思いをしたくないしさせたくない。だから、がん検診や予防の大切さを家で話そう。	◇プレゼンの冒頭で「授業中に体調が悪くなったなら近くの先生に声をかけてください。」と生徒に伝えておくことで、安心して学習に臨めるようにする。 ◇事前に得た質問への回答を、スライドを使って、視覚的に分かりやすく説明する。（外部講師：医師）  ◇スライドを使って、体験を説明する。（外部講師：がん経験者）  ◇教師は、生徒の様子をよく観察し、体調が優れない生徒には声をかける。
終末 5分	5 話を聞いて感じたことを交流する。 ・怖い病気だと思っていたけれど、がん経験者の方の話や様子から、元気に暮らすこともできるのだと知った。 ・私の家族は、がん検診を受けているのか。今日考えたことを話して、もし検診を受けていなかったら、家族のためにも検診を受けるように説得したい。  ≪振り返り（事後アンケート）を書く≫ →教室に戻ってから書く時間を設定する。	◇グループで意見交流をすることで、新たな考えに気付いたり、命や仲間とのかかわりについて考えを深められたりするようになる。 【評価規準】思考・判断・表現 健康や命の大切さについて、主体的に考え、交流したり、プリントに記入したりすることができる。